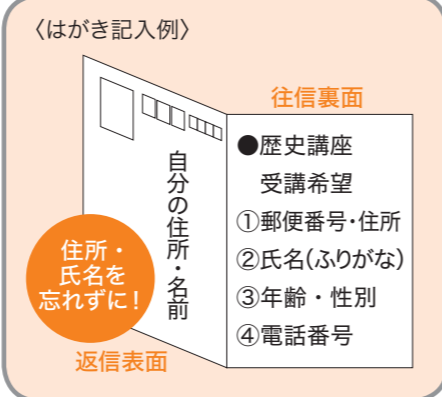


たましん地域文化財団・東京市町村自治調査会共催
第21回 多摩の歴史講座
武蔵武士団の盛衰

武蔵武士団とは、平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて活躍した武蔵国各地の同族的集団の総称です。坂東八平氏、あるいは武蔵七党などと呼ばれ、鎌倉幕府の礎をきざり原動力となりました。幕府成立後は要職にあつて政治に参画し、承久の乱以降は新補地頭となって全国へ移住していきました。室町時代になると、武士団が結びついて白旗一揆、平一揆などの国人一揆を結成しました。

本講座では、武蔵武士団の誕生から鎌倉・南北朝・室町期の動向、また考古学や板碑研究もふまえて、その盛衰を追究します。

- **場 所** 多摩信用金庫府中支店4階会議室(京王線府中駅南口2分)
- **参加費** 無 料
- **申込方法** 記入例を参考に往復ハガキで一人様1枚でお申込みください。
- **申込締切** 平成29年9月4日(月) 当日消印有効
- **定 員** 100名(定員を超えた場合抽選となります。)
- **申 込 先** 〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階
多摩交流センター内「多摩の歴史講座」係
- **お問合せ** 《講座内容について》たましん地域文化財団 TEL042-574-1360
《お申込みについて》多摩交流センター TEL042-335-0100



第1講

「武蔵武士団の誕生」

10月2日(月) 13:30~15:30
 講師: 鎌倉 佐保 氏
 (首都大学東京教授)

第4講

「南北朝期の武蔵武士団」

11月6日(月) 13:30~15:30
 講師: 田中 大喜 氏
 (国立歴史民俗博物館准教授)

第2講

**「考古学研究の立場から
 武蔵武士団をみる」**

10月16日(月) 13:30~15:30
 講師: 浅野 晴樹 氏
 (埼玉県立嵐山史跡の博物館学芸員)

第5講

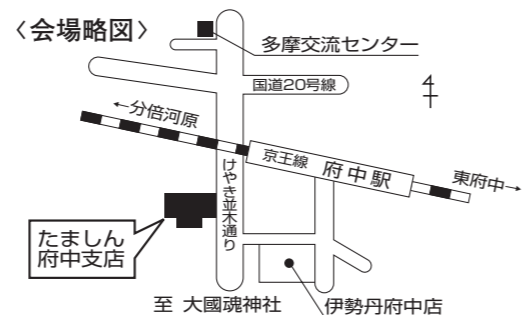
「室町期の武蔵武士」

11月20日(月) 13:30~15:30
 講師: 湯浅 治久 氏
 (専修大学教授)

第3講

「板碑にみる武蔵武士」

10月30日(月) 13:30~15:30
 講師: 伊藤 宏之 氏
 (台東区教育委員会)



※隔週開講しますが、第4講は第3講の翌週になります。 ※今回は、5講とも座学です(見学会は行いません)。

広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

檜原村 郷土芸能と保存会の想いに触れる

実施日 ①9月2日(土)・②9月9日(土)・③9月16日(土)
 ④9月17日(日)いずれも14:00~22:00予定

場 所 檜原村内の各集落の祭り会場
 (集合・解散は武蔵五日市駅)

内 容 ①獅子舞・囃子・式三番 ②獅子舞・神代神楽
 ③獅子舞・神田囃子 ④獅子舞・太神楽・囃子
 (いずれも変更の可能性あり。詳しくは下記問合せ先へ)
 都指定無形民俗文化財にもなっている檜原村の郷土芸能について、解説付きの見学会を開催します。参加者はJR武蔵五日市駅に集合ののち会場となる集落へ移動し、各地域の郷土芸能を観覧します。後日、参加者の中から希望者を募り、各郷土芸能の保存会長等との交流会も開催します。

参加費 1回につき3,000円(1回の参加のみでも可)
主 催 檜原学芸社
問合せ 檜原学芸社 担当 熊野・小澤
 TEL:042-598-6928(NPO法人フジの森 内)
 E-mail: hinohara-gakugeisha@outlook.jp

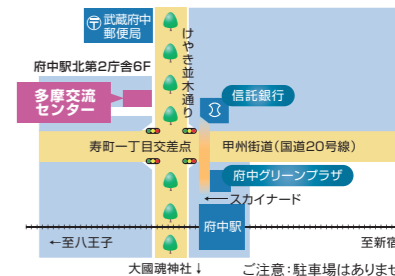


「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階
 TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
 ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 8月に入りました。暑い日が続いています。この季節によく耳にする言葉の一つに「猛暑日」があります。一日の最高気温が35℃以上の日のことをいいます。猛暑日と関連して、よく紹介される地名として、埼玉県の熊谷があげられます。
- 熊谷市のホームページによれば、熊谷の夏がなぜ暑いかについて、二つの理由が考えられるとしています。一つは、フェーン現象により、上空の西風が秩父の山を越えた後に吹き下りるときに、風下側の熊谷付近に流れ込んで気温を上昇させるとしています。もう一つは、日中に吹く「南よりの風」が東京などの大都市を通ってくる間にどんどん温められて、熊谷付近まで来た頃にはとても熱い風になっていることによるもので、「ヒートアイランド現象」が影響を与えていると考えられています。
- ヒートアイランド現象は、熱中症の発生など、人々の健康面にも大きな影響を与えており、東京消防庁が公表している資料によれば、平成23年~27年の5年間で(各年6月~9月)に熱中症により救急搬送された人は合わせて2万人を超え、いずれの年も7月、8月の発生が多くなっています。
- 各自治体や企業が行っているヒートアイランド対策の代表的なものとしては、緑の創出(屋上緑化・壁面緑化、学校の校庭の芝生化)や道路の保水性舗装などがあげられますが、こうした取組のほかにも、家庭や地域で身近に取り組めることを一人一人が心がけ、実践していくことが大切であり、また、効果的です。エアコンの温度を一定に保つ、植物を育て自宅や地域のみどりを増やす、マイカー利用を控え電車やバスなどの公共交通や自転車を利用する、打ち水を行うなど、身近に取り組める方策は数多くあります。
- 当調査会では、関係団体と連携して、市区町村の担当部署の協力の下、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」を実施しているところですが、今後とも、各担当部署のご意見等も踏まえながら、地域で身近に取り組める事業・施策の普及・拡大に努めてまいりたいと考えています。
- 日常生活や行動に工夫をこらし、夏の暑さにも負けぬよう、健康的で地球環境にやさしい日々を過ごしましょう。

(S.K)